

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	国際学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. キリスト教科目4科目を開講する。	→ 1. 指標：キリスト教科目4科目の配当年次に応じた開講率 評価基準：95%以上…評価A、90%以上…評価B、85%以上…評価C、85%未満…評価D	A			
2. 言語教育科目、外国語科目64科目、留学科目13科目を開講する。	→ 2. 指標：言語教育科目(外国語科目64科目、留学科目13科目)の配当年次に応じた開講率 評価基準：95%以上…評価A、90%以上…評価B、85%以上…評価C、85%未満…評価D	A			
3. 国際基礎科目、入門的科目4科目、基礎的科目36科目、基礎演習科目4科目を開講する。	→ 3. 指標：国際基礎科目(入門的科目4科目、基礎的科目36科目、基礎演習科目4科目)の配当年次に応じた開講率 評価基準：95%以上…評価A、90%以上…評価B、85%以上…評価C、85%未満…評価D	A			
4. 国際専門科目、共通科目62科目、北米研究コース科目32科目、アジア研究コース46科目、研究演習科目6科目を開講する。	→ 4. 指標：国際専門科目(共通科目62科目、北米研究コース科目32科目、アジア研究コース46科目、研究演習科目6科目)の配当年次に応じた開講率 評価基準：95%以上…評価A、90%以上…評価B、85%以上…評価C、85%未満…評価D	A			
5. 領域関連科目14科目を開講する。	→ 5. 指標：領域関連科目14科目の配当年次に応じた開講率 評価基準：95%以上…評価A、90%以上…評価B、85%以上…評価C、85%未満…評価D	A			
6. 英語による授業を80科目開講する。	→ 6. 指標：英語による授業80科目の配当年次に応じた開講率 評価基準：95%以上…評価A、90%以上…評価B、85%以上…評価C、85%未満…評価D	A			

☆

2011年度以降に設定した「目標」		左記目標の「指標」		2010	2011	2012	2013
	→						
	→						

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	<p>6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p> <p>(説明)</p> <p>1. キリスト教科目4科目の配当年次に応じた開講率 100%</p> <p>2. 言語教育科目(外国語科目64科目、留学科目13科目)の配当年次に応じた開講率 100%</p> <p>3. 国際基礎科目(入門的科目4科目、基礎的科目36科目、基礎演習科目4科目)の配当年次に応じた開講率 100%</p> <p>4. 国際専門科目(共通科目62科目、北米研究コース科目32科目、アジア研究コース46科目、研究演習科目6科目)の配当年次に応じた開講率 98.6%(2科目不開講)</p> <p>5. 領域関連科目14科目の配当年次に応じた開講率 100%</p> <p>6. 英語による授業80科目の配当年次に応じた開講率 97.5%(2科目不開講)</p>
小項目6.2.2	<p>6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p> <p>(説明)</p> <p>1. キリスト教主義に基づく人間教育としての教養教育を通じて、倫理的価値観を体得した人材を養成するため、キリスト教科目を置く。</p> <p>2. 言語教育科目は、外国語の運用能力(実践的なコミュニケーション能力と、読解及び文章表現能力の双方)を重点的に養成する。言語教育科目は、第1外国語初級(1、2年次)、第1外国語中級(3年次)、第1外国語上級(4年次)、第2外国語初級(1年次)、第2外国語中級(2年次)に区分する。第1外国語は、英語、中国語、朝鮮語、日本語(外国人留学生用)から1外国語を選択する。第2外国語は、第1外国語以外で、英語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、スペイン語から1外国語を選択する。また2年生を主たる対象に、英語、中国語、朝鮮語の運用能力(実践的なコミュニケーション能力と、読解及び文章表現能力)を育成し、また異文化に対する感受性と理解を深めることを目的として、言語教育科目の中に留学科目を配置する。留学科目は、原則として第1外国語を使用言語とする国への約1ヶ月の短期留学を行う短期留学科目、約4ヶ月の中期留学を行う中期留学科目を置き、第1外国語初級の単位とする。</p> <p>3. 国際基礎科目では、本学部が位置づける「国際学」を理解するために、本学部で提供する学問領域(文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営)に含まれる学問分野について学び、将来の進路と関係した授業を受け、どのような分野に進むことができるかを学ぶ。このような学びを通じて様々な学問分野の基礎を修得し、自らの進路を定めると同時に、2年次以降に、どのように北米、アジアの「地域」を切り口にした授業科目と、「国際」を切り口にした学問分野に基づく授業科目を履修し、どのように研究演習科目を履修していくかを考える。</p>
	<p>4. 国際専門科目は、1年次に国際基礎科目を履修した学生は、2年次から自らの進路を定め、それを目指して、適切な主な地域を選ぶとともに、文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の各領域から主な領域を選び学習する。主として2～3年次は、共通科目を通じて、文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の各領域に関する基本的で使用可能な理論、視座、方法論を学び、それらを利用して北米研究コース、アジア研究コースの基本的知識を深く学んでいく。3～4年次は、共通科目、北米研究コース科目、アジア研究コース科目の学習を基に、研究演習科目で、自ら問題を発見し、その問題を解決できる能力を養っていく。なお、英語で行う授業科目に関しては、外国語の運用能力を早期に養成するため、1年次から履修できるように配置する。</p> <p>5. 言語コミュニケーション能力を養成することから4年間の外国語教育、とりわけ英語教育に力を入れている。さらに文化・言語領域の英語学、英米文学の分野を充実するために、文化・言語領域に関連する科目として、領域関連科目をおく。</p>
その他	

《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目6.2.1	1. キリスト教科目4科目の配当年次に応じた開講率 100% 2. 言語教育科目 (外国語科目64科目、留学科目13科目) の配当年次に応じた開講率 100% 3. 国際基礎科目 (入門的科目4科目、基礎的科目36科目、基礎演習科目4科目) の配当年次に応じた開講率 100% 4. 国際専門科目 (共通科目62科目、北米研究コース科目32科目、アジア研究コース46科目、研究演習科目6科目) の配当年次に応じた開講率 98.6% (2科目不開講) 5. 領域関連科目14科目の配当年次に応じた開講率 100% 6. 英語による授業80科目の配当年次に応じた開講率 97.5% (2科目不開講)
	小項目6.2.2	特に言語教育科目の留学科目において、学部独自の英語中期留学 (ハワイ大学マノア校HELP)、中国語中期留学 (北京第二外国语学院)、朝鮮語中期留学 (延世大学韓国語学堂) を設定した。また、S A F (Study Abroad Foundation) による認定留学を設定した。
	その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目6.2.1	特に英語による授業について、2011年度教育課程表では101科目を開講予定である。
	小項目6.2.2	今後、留学をより充実させるため、他大学とのダブルディグリーについて検討する。
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目6.2.1	
	小項目6.2.2	
	その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目6.2.1	
	小項目6.2.2	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○非常に成果が挙がっていると評価できます。今後は、留学の成果の検証など、よりよいカリキュラムに向けた検証作業が期待されます。

【学内委員】

○現状の説明のなかで教育課程の体系を各科目群ごとの開講率も含めて詳しく説明していて、大変周到です。

○必要な授業科目の開設状況と順次性のある授業科目の体系的配置が示されており、相応しい自己点検・評価内容です。

○丁寧な説明です。

○大学基準協会は、留意すべき事項において、下記のとおり基盤評価と達成度評価を示しています。そして達成評価の評価に当たって留意することをあげています。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと明らかにする。）

- ・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性
- ・学生の順次的・体系的な履修への配慮
- ・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○次年度報告では、教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているかどうかという観点から達成度評価を行う。評価に当たっては下記のことを明らかにする。

- ★ 方針と教育課程の編成・実施実態の整合性
- ★ 学生の順次的・体系的な履修への配慮
- ★ 学位課程の固有の課題に応える措置（特に留学の成果の検証）